

# めざすべき 未来がある！

これまで経験をしたことのない「新型コロナ」や「ロシアによる戦争」、そして「物価の高騰」が進行しています。

その以前より、「人口減少」「年齢ピラミッドの変化」「家族の小規模化」「超高齢社会」といった経験のない社会を歩んでいます。

「地震」「大型化する台風」「短時間集中豪雨」などの災害への対応も、今持っている能力を超えたものです。

これからの市民福祉の向上には、「公と民」の垣根を越えたルールやシステムを、社会の変化に合わせて再構築していくことが求められています。

その上で、個人も地域も、環境も、経済（行政では財政）も、しっかりとした形で次代に引き継ぐという目標を共有することが肝要です。

さらに、デジタル技術は、生産性の向上とともに、地域や生活を豊かにするツールとして、これからの社会生活の標準装備として取り入れていく必要があります。

リアル社会とバーチャル社会のバランスを考えつつ、地域社会の活力の向上に努めなければなりません。

山積する諸課題に対し、住民に最も近い基礎自治体としてどのように対処していくのか、議会活動を通して提案提言を行ってまいりました。

これからも「対話」と「現場主義」を通し、  
今と未来に、責任を持って取り組みます。



人口減少時代にこそ、めざすは

「全員参加型社会」

「持続可能な社会」

## 4年間の足跡

4年間にいただいた声を、  
市全体の政策として提案いたしました。  
その主なポイントを取り上げています。

## 誰にもやさしく、安心なまち ~人が中心。安全安心を確かなものに~

「災害」「防犯」「孤独対策」などに加え、保健所を持つ中核市として、新たに「新型コロナ」の健康危機事象への対応に取り組んできました。  
笑顔で元気に過ごす源は、毎日の安心感・充実感です。これからも子どもからお年寄りまで、誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進します。

- 災害対策に、デジタル技術や心理学などの視点を取り入れた提案。
- 災害対応、避難所運営など、個人を起点とした取り組み重視。
- 家族構成の変化と一人暮らし高齢世帯・高齢者のみの世帯の増加を見据えた、見守りの拡充。

## 活力あふれるまち ~先端技術を取り入れた、イノベーションを~

コンパクトな市域に多くの人々が住まいする本市の優位性と、デジタル技術の融合により、まち・組織・システムにイノベーションを起こすことを意識し、取り組んできました。  
これからも「人・もの・情報」が交流する活力がある社会を3つの視点で取り組みを進めます。

- |       |                                                                                                                                                                          |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 職住の視点 | <ul style="list-style-type: none"><li>● 生活基盤としての職住。市内雇用数の増加と定住促進への取り組み。</li><li>● 個店と業界を区別した、新たな市内産業の支援策の提案。</li></ul>                                                   |
| まちの視点 | <ul style="list-style-type: none"><li>● 自動運転などの新たな近距離交通手段への提案。</li><li>● 公共事業・民間開発を契機に、交流・活力・景観の視点でまちづくりを提案。</li><li>● 地域活動とビジネスを融合させ、地域も個人も収益につながるシステムへの取り組み。</li></ul> |
| 人の視点  | <ul style="list-style-type: none"><li>● 全ての人の健康寿命を延ばすため、一人一人の健康情報の一元化を提案。</li><li>● 健康無関心層にアプローチする具体策の提案。</li></ul>                                                      |

## 心と心が通い合うまち ~つながりから生れる力を、生活の原動力に~

家族形態の変化や少子高齢化を背景とした課題があります。それには、個人・家族による「自助」だけでなく、近所同士での「共助」を通し、つながりから生れる力を大きくすることで対応が不可欠です。  
寝屋川市で親・子・孫が引き続いて住み続ける「ふるさと化」を推進します。

- 多世代の家族が、市域内で生活することができる家族政策。
- 子育てを楽しむことができ、豊かな心を育む環境による出生数の増加策。
- 全市的な施設一体型小中一貫校の独自ビジョンを提案。
- みどりと文化を取り入れた、品格のある都市空間の創造。
- 新型コロナで停滞した住民自治を、従前以上に取り組みが向上できるよう支援。

## 持続可能なまちづくり ~子どもたちの未来へ。さらなる持続可能性を~

『「今」と「未来」がどのように変わっていくのか。』想像力を働かせ、世代間バランスを考えた未来を創造していかなければなりません。SDGsでは「環境」「社会」「経済(財政)」が重要とされています。  
それに加え、「寝屋川市」という市自体の持続可能性に取り組んできました。

- 世代別人口構成の変化を意識した、今と未来にバランスを持った政策を提言。
- デジタル技術を全ての施策で具体的に提案し、真のスマートシティへの挑戦。
- 役所内業務の生産性向上にDX計画の改善。
- ウェルビーイング(幸福度)の指標を取り入れ、個人に寄り添ったサービスへの転換。
- 公共施設や条例など、時代の変化と持続可能性を追及したものへの変更。